

地域農業の概況・課題

5年前の熊本地震で、南阿蘇村の農業は、甚大な被害を受けました。とくに、南阿蘇村の立野地区はいまだに一部しか農業用水の整備はされず稲作は15%の水田しか実施されていません。南阿蘇村をはじめとする阿蘇地域の創造的復興を成し遂げ地域の活性化、持続的発展を進めるには、阿蘇の特徴を活かし、阿蘇地域にある資源を最大限に活かすことです。

事業の方針

九エコの畜産会員農家、くまもと阿蘇県民牧場、東海大学、熊本県、熊本県畜産農協連、南阿蘇村黒川・立野地区、南阿蘇村、JA阿蘇等の地域のサポート支援を得て、事業を進めていきます。あか牛繁殖・肥育生産農家の新規就農者育成だけでなく、耕種農業を目指す新規就農者もすべて九エコ実践研修圃場で、農業基礎実践研修を実施し、新規就農サポート体制の構築をはかっていきます。

事業目標・成果

農業における新規就農のサポート体制の確立、新規就農者の確保・育成

実施体制

NPO法人九州エコファーマーズセンター：新規就農育成
くまもと阿蘇県民牧場：あか牛育成
会員農家：実践教育OJT
東海大学：畜産指導
熊本県：人材育成支援
南阿蘇村：就農・定住支援
黒川地区：住居・農地提供
JA阿蘇：営農情報
熊本県畜産農協：畜産販売普及

取組内容(新規就農サポート体制の構築)

実施スケジュール

(1) 新規就農サポート体制構築・推進委員会の設置
委員会を設置し、実施内容を委員会で決定し、中間とりまとめ、来年度の実施改革、進捗状況の報告等を審議し決定していきます。

令和3年度、10月21日、令和4年2月12日、令和4年6月、令和5年3月

(2) 受入プログラムの作成
九エコで実施している「農業体験」「短期研修」「研修受入面接」という一連の「受入プログラム」にしたがって長期新規就農研修生及び新規就農希望者の受入をおこなっていきます。

随時実施

(3) 新規就農者に対する相談体制の整備
移住フェアや熊本県新規就農相談会の対応に加え、多様な新規就農者の相談ニーズに応えるためSNSやオンライン相談を通じて新規就農者に対する相談体制の充実をはかっていきます。さらに、新規就農関連機関の熊本県新規就農支援センターを始め熊本県農業会議、熊本県農業公社、熊本県の出先機関(県地域振興局、東京・大阪の熊本事務所)、市町村農政課、市町村農業委員会、JA中央会、熊本県新規就農認定研修機関等と連絡、提携、情報提供を随時おこないながら、相談体制の充実を進めていきます。

随時実施

(4) 研修プログラムの作成

九エコで実施している研修プログラムに加えて、南阿蘇村黒川・立野地区で実施する九エコ実践研修圃場でのあか牛生産農家の新規就農人材育成カリキュラム(1年～2年)と農業基礎実践研修(2～3カ月)カリキュラムを、東海大学、熊本県地域振興局、熊本県畜産農協連、県立農業大学校、九エコの畜産農家会員の協力のもと作成していきます。このカリキュラムをおこなっていくうえで、南阿蘇村黒川・立野地区にて、くまもと阿蘇県民牧場、南阿蘇村黒川・立野地区農家、東海大学、南阿蘇村等、関係者の協力得て、畜舎、牧場、放牧場、水田等を実践研修圃場として整備し、確保していきます。

・畜産農家新規就農人材育成カリキュラム作成のための調査及び作成
令和3年10月28日、11月25日、12月9日、令和4年1月21日、2月22日

・仮研修畜舎整備、令和4年2月～3月

・実践研修圃場整備整備、令和3年12月～3月、

・農業基礎実践研修及び畜産実践研修令和4年4月～令和5年2月

(5) 新規就農者募集に係る広報活動

新農業人フェア、熊本県新規就農相談会、ハローワーク、移住フェア、熊本県出先機関(東京事務所、大阪事務所、ふるさと回帰センター)等々への出展やチラシ配布等にて新規就農者募集に関わる広報活動をおこなっています。さらに、当センターの活動や新規就農者募集をホームページ上やSNS上で公表するとともに、就農相談にもオンラインで対応するなど、ITを活用していきます。

随時実施

(6) 地域の福祉関係機関・団体との連携

熊本県内の社会福祉法人、受入農業法人との連携を深め、農福連携のニーズを探り、心身障害者や引きこもりの方々の農業インターンシップ活用による農業体験の実施や受入の可否についての条件整備など、受入プログラムを検討していきたいと考えています。

随時実施

取組内容（新規就農サポートの実施）

実施スケジュール

(1) 農業就農体験、現地見学会等の開催

新規就農希望者のニーズにこたえて、受入農家を選び、農業体験を随時、随時実施しています。

随時実施

(2) 農業技術に関する研修の実施

研修カリキュラムに従って月1回、全研修生共通の基礎的技術及び経営研修を実施し、さらに、受入農家にて作物別にOJTによる技術及び経営研修を実施しています。とくに、今回の事業で整備、確保した実践研修圃場にて、集中的に基礎的農業技術習得とあか牛生産経営に関する技術習得をさせるため、専門指導員の配置と熊本県、JA、熊本県畜産農協連、くまもと阿蘇県民牧場等の協力を得て実施する計画です。

・令和4年4月以降、月1回集合研修を実施
・実践研修圃場及び受入農家で1年間OJT実施

(3) 農地等のあっせん・確保

受入農家が研修生の新規独立就農のために、農地やハウス、農機具等があっせん、支援によって確保しているのが、一番多い状況です。最近では、研修に入ると同時に、就農予定の市町村や農業委員会、集落へ研修生の紹介をかね、九エコの担当者と研修生が、農地のあっせん、確保のお願いをするなどを行っています。

随時実施

(4) 新規就農サポート人材によるフォローアップ

新規就農者へのフォローアップは、九エコの担当者や受入農家が引き続き行うことを原則にすすめています。と同時に、当会員農家のネットワークや新規就農している研修修了者のネットワークの構築の中で、農業の技術や販売先、商品開発、農地の確保等々、新規就農者が遭遇する課題に対処しています。

随時実施

<p>(5) 生活面での支援 基本的な生活面の支援は、受入農家、九エコ、地域の集落、市町村の方々によっておこなわれています。阿蘇地域での研修生については九エコが準備した宿泊施設に入居できるようにしています。</p>	随時実施
<p>(6) 就農後のスキルアップ支援 就農後のスキルアップ支援は、熊本県、地域振興局、JAの部会、NPO法人熊本県就農支援機関協議会等が実施する研修会に参加などによりおこなわれています。</p>	随時実施